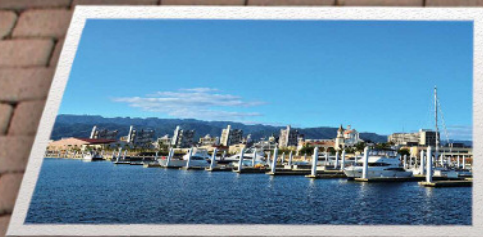


芦屋市 阪神・淡路大震災 20周年事業 記録報告書



2015.1.17

未来へつなぐ

いのち・まち・こころ



1995.1.17

Contents

市長あいさつ	1
芦屋市阪神・淡路大震災 20 周年事業概要	2
阪神・淡路大震災 芦屋市犠牲者追悼式	6
祈りと誓い	9
1.18 ASHIYA 防災ひろば	10
その他の関係事業	16
フェニックス基金について	34
阪神・淡路大震災の芦屋市の被害の概要	35
防災の取り組み	37



市長あいさつ



夜明け前に突然の激しい揺れ。一瞬にして静かで美しいまち芦屋は破壊しつくされ、444人の尊い命が失われました。残されたのは、市内の半数以上の建物が崩壊したまちと、家や生活の基盤を失った多くの市民、そこからの長く先の見えない復旧・復興の日々でした。

本年1月17日、阪神・淡路大震災から20年目を迎えました。

被害の割合では、阪神・淡路大震災の被災地の中で最も大きな傷を負った本市は、ただ元の姿に戻るだけでなく、先人から受け継いだものを最大限に生かし、災害に強く、世界のどこよりも美しく、暮らしやすいまちにすることを目指し、市民と行政が一体となって歩んできました。

そして今、私たちは未来の芦屋市民のために、阪神・淡路大震災の経験と教訓を引継いでいくという重要な責任を負っています。今の芦屋市を実現させた先人たちの願いとたゆまない努力、震災によって生まれた市民参画の文化、緑あふれる美しいまちなみへの愛着を次の世代へ引継ぎ、未来の芦屋市をさらに素晴らしいまちにしていくために、本市は今年度一年間をかけ、阪神・淡路大震災20周年事業を実施しました。

震災以降ずっと活動を続けてこられた市民による活動、20年前にはまだ生まれていなかった若者たちの活動、20年を節目とした行政の事業など、大震災の経験と教訓を引き継ぐために様々な事業が実施されました。この20周年事業をきっかけとして新しい出会いもありました。

20周年事業は平成27年3月末をもって終わりますが、大震災の経験と教訓の継承はこれからも続きます。貴重な経験と教訓を糧に、芦屋市が、安全・安心な世界一美しいまちになるよう、これからも市民と行政が力を合わせて取り組んでまいりましょう。

平成27年3月

芦屋市長 山中 健

芦屋市阪神・淡路大震災20周年事業の概要

阪神・淡路大震災から20年の節目にあたり、震災犠牲者への哀悼の意を示すとともに、震災で得た経験と教訓を次世代に継承し、災害に強いまちづくりを進めるため、芦屋市阪神・淡路大震災20周年事業を実施しました。

<基本コンセプト>

安全・安心のまちづくりに向けて、阪神・淡路大震災やそれ以降の全国各地で発生した災害で得た知見を伝承し、未来につなげる。

<キャッチフレーズ>

「未来へつなぐ」～いのち・まち・こころ～

<実施期間>

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで(1年間)

阪神・淡路大震災 芦屋市犠牲者追悼式

芦屋市 祈りと誓い

1.18 ASHIYA 防災ひろば

防災についての市民アンケート

職員間での経験と教訓の継承

まちづくりの振り返り



平成26年10月10日
神戸新聞掲載

【広報あしや】

平成26年6月1日号

阪神・淡路大震災20周年事業ロゴマーク

臨時号 平成26年7月1日発行

阪神・淡路大震災20周年事業特集

平成26年7月15日号

阪神・淡路大震災20周年市民事業募集 写真・ビデオレター募集

平成26年12月15日号

12月・1月の事業予定

平成27年1月1日号

阪神・淡路大震災20周年事業(1月以降の事業予定)

平成27年1月15日号

阪神・淡路大震災から20年を迎えて

【広報あしやコラム】

《シリーズ》阪神・淡路大震災 20年経って考えること

「未来へつなぐ」-いのち・まち・こころ-

平成26年9月15日号

芦屋市社会福祉協議会会長	加納多恵子 氏
芦屋ハートフル福祉公社理事長	佐藤 稔 氏

平成26年10月15日号

津知町自治会長	中井 順介 氏
ボランティア	法正 映真 氏

平成26年11月15日号

あしやNPOセンター理事長・芦屋市商工会理事	石本 章宏 氏
元芦屋市建設部長	青木 昭 氏

平成26年12月15日号

前市立芦屋病院長	故 金山 良男 氏
元芦屋市建設部参事	阪本 登 氏

平成27年1月15日号

前芦屋市長	北村 春江 氏
精道小学校教諭	乾 芳 氏

9月15日号



10月15日号



11月15日号



12月15日号



1月15日号

詳しい内容は芦屋市ホームページのバックナンバー
 (http://www.city.ashiya.lg.jp/kouhou/on_line/) でご覧いただけます。

【芦屋市広報番組 あしやトライあぐる】

- 11月後半 阪神・淡路大震災から20年
住民の思いは通ったのか～山手幹線建設～前編
- 12月前半 阪神・淡路大震災から20年
住民の思いは通ったのか～山手幹線建設～後編
※平成27年3月に「阪神・淡路大震災のシンボルロード
山手幹線建設15年の歩み」を作成
- 12月後半 阪神・淡路大震災から20年
職員の経験をつなぐ～未来の芦屋のために～
- 1月前半 新春特別インタビュー
阪神・淡路大震災から20年を迎えて
- 1月後半 阪神・淡路大震災から20年
伝えて繋げる 兵庫県立芦屋高校ボランティア部

【ビデオレター募集】

- 募集期間：平成26年7月15日(火)～平成26年11月28日(金)
応募作品：2点を1.18 ASHIYA 防災ひろば「阪神・淡路大震災資料展示室」にて放映

【阪神・淡路大震災の写真募集】

- 募集期間：平成26年7月15日(火)～平成26年10月15日(水)
応募作品：45点のうちの一部を1.18 ASHIYA 防災ひろば「阪神・淡路大震災資料展示室」にて展示

【「芦屋市阪神・淡路大震災20周年事業」の冠およびロゴマークの使用】

市民団体や行政が行う事業で次のコンセプトに沿ったものに冠・ロゴマークを使用

- ・－いのち－をつなぐ
(人命救助、鎮魂、防災訓練、防災教育など、命に関連する取組の展開)
- ・－まち－をつなぐ
(まちづくりに関連し、防災力の向上に資する取組の展開)
- ・－こころ－をつなぐ
(震災経験者からの震災の記憶や体験を次世代につなぐ取組の展開)

○冠名称「芦屋市阪神・淡路大震災 20 周年事業」

○ロゴマークは以下の4つ



ロゴマーク使用事業数 53 件（事業一覧に掲載）

ロゴマーク使用配布物 7 件

- 芦屋市職員採用ガイド
- 阪神地区公立小中特別支援学校事務研究大会資料
- 朝日ヶ丘小学校 1 月学校便り
- マナー条例うちわ 2 千部
- 市立芦屋病院シール
- 市議会事務局視察配布資料<表紙>
- 市議会議員活動報告<震災 20 周年事業紹介欄>

その他職員名刺等

【1.17あしやフェニックス基金助成金の支給対象拡大】

改正：対象となるグループに大学生等のグループを追加

特例措置：平成 26 年度実施する阪神・淡路大震災 20 周年関連事業に限り、他の補助金を受ける活動であっても重複しない部分について対象とする。

支給対象：10 団体

【防災についての市民アンケート】

調査の対象：本誌に住民登録をしている20歳以上の方のうち無作為に抽出した3,000人

実施期間：平成26年10月31日(金)～11月21日(金)

宅配方法：郵送

回収票数：1,592票(回収率53.1%)

報告書：平成27年4月発行予定